
何も持っていなかった

ナミキミチ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

何も持っていなかった

【Nコード】

N1878K

【作者名】

ナミキミチ

【あらすじ】

主人公、女は母を失った。

明るい気持ちも失った。

その後の生活、人生はどうなるのだろう。

らしい（前書き）

いじめや血の表現など、あまり好ましくない表現が含まれております。

そういったものが苦手な方は御観覧をお止めください。

らしい

家族7人って多くね？

子供5人っておい。

女4人男1人って・・・なーんか兄ちゃん可哀想だな。

一番最後に産まれた、末っ子は未熟児で生き死にが係っていたらしい。

なーんて呑気に考えちゃってる私がその「末っ子」なんだけど。

話がだいぶ理解できる頃になってからその話を聞かされた。

マジかよ私900gちょいだったの？！

マジ？！

それ普通に危険じゃん！！

とかそんな時はおもしろ半分だと思ってたけど。

母さんが死ぬか私が死ぬかのどっちかだったらしい。

A型の血が足りなかったらしくて父さんは仕事のA型の奴らと呼んだ。

んで、奇跡的にどっちも死ぬことはなく生き残れたっつーの？

父曰く

「A型の血が足りねえのに何でB型が来てんだよ！」

「や・・・何か心配だから・・・」

とまあ面白い状態になっていたらしい。

面白いと言っちゃちょっと失礼かな？

んじゃ、ちょっと修正して、まあ大変な状態になっていたらしい。

・・・えっー、全然覚えてねーや。

・・・当たり前か。

そんな昔のこと・・・。

むしろ覚えてたらすごいよな。

家族たち紹介

まあとりあえず自己紹介しておこう。

私は川崎 ケイ。

一番我がままに育つと言われる末っ子だ。
その通り、ほかのきょうだい達よりも我がままだという自覚はある。
口が悪いのはお許しを。

まあそんな事は置いといて。

一番上の姉、ナナ。

ナナちゃん（何故かちゃんをつけてしまう）は一番しっかりしている。

それに何より美人。
友達にも結構人気がある。

二番目の姉、ユウコ。

小さい頃はかなりグレていたらしいが、10代後半になったらいきなりしっかりしてきた。
かなり几帳面でおもしろい。

三番目の姉、アヤカ。

意外におもしろい人で、結構話しやすい。

ただ怒るとなんか変になるからあまり怒らせないようにしている。

そしてその次は私の兄にあたる人、ショウゴ。

おもしろいけど二番目の姉、ユウコを上回るほど几帳面だ。
毎日のように部屋を掃除しろと怒られる。

でも根はかなりいい人でもoshiroi。何だかんだ言って結構仲が良
い。

そして母、トモエ。

今はあまり覚えてないけど、料理がすごい美味しかった気がする。
特に餃子とお菓子が最高だった。

腹壊すほど食ったこともあるようなような。
フラメンコをやっていて、その時の母さんはめっちゃ綺麗だっ
た。

周りの友達に自慢したこともある。

父、ヨシカズ。

仕事は大工で指がめちゃくちゃ汚い。

いや、紹介すべきことはそこじゃないって分かってるんだけど。
あまりにもその印象が強すぎてね・・・つい。

この人も結構おもしろい人だ。

何故だか知らんが昔メモリーカードと一緒に寝ていた。

気持ちよく眠っている故に、とても不思議な光景だった。

きょうだい同士、仲が悪いのとかは別にいないし、こつこつと見ると
まあ悪くない普通の・・・

いや、普通よりちょっと人数多い方だと思うけど。
とにかくあまり悪くはない家族だ。

幸せだったころ

夏休み、冬休みは必ずと言っていいほど行くところ。

そう、長い休みの中で唯一の楽しみ、軽井沢だ。

夏に行けば少し涼しくて、冬に行けば寒さはちよつと辛いけど

もふもふと積もった雪がその事を忘れさせてくれた。

別に高級料理とか、滅多にやらない遊びとかそんなの全然ない。

ただ外で大はしゃぎして、適当に店廻ってソフトクリーム食べての
繰り返しみたいな。

でもそれがすつごく楽しい。

綺麗な建物を見つけてはそこで記念写真撮ったり、でっけえ湖で泳
いでる・・・というより

浮かんでる？鴨を眺めたり。

店で綺麗なアクセサリーを見つけては

「綺麗だねこれ」

と、なんとなく姉に話したり。

軽井沢に行けばちょっとしたこともめちゃくちゃ楽しくなる。

ホテルの慣れていない感触のベッドで眠って次の日目を覚まして見慣れない景色が目映り一瞬びっくりする感じとかたまねえ。

帰る時はなんか泣きたくなるほど落ち込むのかさ、悲しいけど微笑ましいよな。

帰りにちよこつとコンビニ寄って、握り飯を食べながら

「また来年来よーね」

と、ちょっと斜め向いて優しくそう言ってくれる母の言葉。それを聞くとちよつと沈んだ気持ちがすんごい元気になる。

そこで私はとびきりの笑顔で「うん!!」と返事をするんだ。

帰り道にあれほど心が暖かくなるのは他にねーよ。マジで。

遠いところから帰ってきて、お風呂に入って疲れた体をベッドに休める。

そんなとき旅行の反省。

ああ、幸せだったな・・・。

それで終わり。

心が満たされる暖かさ。

ゆっくり瞼を閉じてぐっすりと眠るのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1878k/>

何も持っていなかった

2011年1月26日11時50分発行